



物 部 川



☆卒園・卒業の節目の時はです。

この生け花は、3月1日に行われた山田高等学校卒業式にお伺いした際、校長室入り口に飾られていました。瑞々しく、希望に向かい真直ぐに伸びゆく卒業生の皆さんを象徴するような美しさを感じました。

在校生の送辞、卒業生の答辞に目頭を押さえ、じっと聞き入る会場のすべての皆様の、卒業生の成長を喜び、互いに感謝をし、これからも頑張っって自分の道を進んでほしい、そういう気持ちが一つになった卒業式でした。併せて、ここにも探究の学びが繋がり、高まっていることを実感し、「探究のまち香美

市」を実感した1日となりました。卒業生の皆様、おめでとうございました。益々のご発展を祈念しております。

さて、香美市の保育園、幼稚園、小・中学校も卒園、卒業の節目を迎えます。3月11日(金)には、香北

中

学校・大栃中学校、12日(土)には鏡野中学校、23日(水)に市内すべての小学校、20日(日)に私立幼稚園、26日(土)にはすべての公立保育園が、卒園式・卒業式を行います。

立派に成長された子供たちのこれからは幸多かれと願い、次のステージへと送り出されるご家族の皆様や先生方のお気持ちを思うとき、感激も一入のことであろうと心よりお喜び申し上げます。また、地域の皆様方には、暑い日も寒い日も早朝より子供たちの安全を見守って頂いたり、数々の活動のご支援をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

卒園生・卒業生の皆さんのこれまでの努力を讃えますとともに、これからも自信をもって元気で自分の未来を拓いていってほしいと願っています。

卒園 卒業おめでとうございます

進 取 開 明

為 虎 傳 翼

◇この2つが今年の(私自身の)香美市教育の推進テーマです。具現化された姿を見つけ、折々に、お知らせしたいと思います。早速ですが、香美市立教育研究所研究発表会においてその姿に出会いました。

☆2月19日(土)に令和3年度香美市立教育研究所研究発表会が開催されました

本年度の発表会は、発表者が香美市役所本庁からリモートにて、参加者の皆さんに研究発表を行うという形で開催されました。会場には発表者の皆さんとその関係者の方、直接参加を希望される方、そして運営スタッフのみが参集しました。どの発表も本市教育の強みを一層の充実・発展へと導いてくれる質の高い内容で、発表方法もよく工夫されており、興味深く拝聴しました。香美市のみならず全国的にも直面している教育課題改善のために大変参考になります。それぞれの研究についての詳細は香美市教育研究所まで、お問い合わせください。



☆香美市議会・教育厚生常任委員会より、村田珠美議員、舟谷千幸議員がご参加

くださいました。ありがとうございました。

☆研究発表一覧

発表者	所属等	研究テーマ
李 由美	香美市立教育研究所 研究員	児童の主体性を育む探究的な授業をめざして ～ICTを活用した理科学習の授業改善～
小串 真紀	香美市立教育研究所 研究員	共に学び、共に育つ授業づくり ～学びを支える基礎力・認知機能を高めるために～
谷口 緑	楠目小学校 在校研究員	インクルーシブ教育の実現に向けて ～通常学級における環境整備とMIMの取組～
大井 厚志	舟入小学校 校長	学校安全総合支援事業【生活安全】の取組
百田 曜誠	大宮小学校 教諭	より深い理解を目指したATLの重要性
小松 弥生		～公立校でのPYPとMYPの実践～
松尾 周	香北中学校 教諭	
波内 真美	片地保育園 保育士	主体的に生活やあそびを展開していける子どもの姿をめざして ～乳児から幼児へのつながり～
黒原 麻貴		

○あっという間の2時間あまりでした。特に嬉しく思ったのは、研究的に実践を重ねる中で、子供たちがより良い方向に成長し、確実に力を蓄えていることです。一人一人の子供の成長を願って取り組まれた実践的研究の成果が子供たちの生き生きと学び、遊ぶ姿と重なり、感動しました。

○皆様の研究が、間違いなく「郷土を愛し未来を拓く」子供育ちにつながることを確信し、大変誇りに思います。次年度の研究への取り組みが楽しみになりました。

○最後に、進取開明の気概を持ち、子供たちの健やかな成長を願い、日々ご熱心に取り組まれた先生方への感謝の気持ちに代えて大村はま先生の言葉を紹介さ

せていただきます。

- ・とにかく「研究」ということから離れてしまった人というのは、私は、お年が20いくつであったとしても、もう年寄りだと思うんです。つまり、前進しようという気持ちがないわけですから。
- ・研究ということは、「伸びたい」という気持ちがたくさんあって、それに燃え尽きないとできないことなんです。
- ・なぜ「研究」をしない先生は「先生」と言わないかと申しますと、「子供というのは身の程知らずに伸びたい人、一歩でも前進したくてたまらないんです。力をつけたくて、希望に燃えている。その塊が子供なんです。勉強するその苦しみと喜びの只中に生きているのが子供なんです。研究している先生は、その子供たちと同じ世界にいます。研究をせず、子供と同じ世界にいない先生は、まず先生としては失格だと思います。

※大村はま著「教えるということ」より抜粋



ふれんどるーむ 平山相談員作「春」